

TAJIMI
CUSTOM
TILES

TAJIMI CUSTOM TILES TOKYO 2022

An installation by Ronan & Erwan Bouroullec



ミラノデザインウィークでのインスタレーションの様子 2022年6月

2022年10月29日(土) - 11月6日(日)

open: 11:00 - 18:00 会期中無休

会場: LICHT

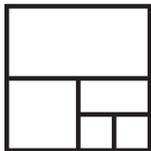
東京都目黒区青葉台 3-18-10 カーサ青葉台 2F

プレスレビュー: 10月28日(金) 14:00 - 17:00

*デザイナーが来日し在廊の予定です

tajimicustomtiles.jp

@tajimicustomtiles



TAJIMI
CUSTOM
TILES

TAJIMI CUSTOM TILES は、日本の一大タイル産地の多治見で 2020 年に立ち上がった、フルカスタムでタイルの製作を手がけるブランドです。1300 年にわたり続く焼き物の伝統と歴史の中で、多治見には数々の技が生まれ継承され、現在の多治見の最大の特徴である多様性のあるものづくりを実現しています。そしてこの多様性が導き出したのが「ビスポーク・タイル」という発想です。丁寧な対話、最高の素材、最高の技術で仕立てる洋服づくりにならって、TAJIMI CUSTOM TILES はきめ細やかなコミュニケーションと多治見の技を集結して、世界中の建築家やデザイナーの方に向け、オリジナルのサイズ、形、色、質感のフルカスタムタイルを制作しています。

このたび TAJIMI CUSTOM TILES は、デザイナーのロナン&エルワン・ブルレックを迎え今年 6 月にミラノデザインウィークで発表した作品に新たな作品を加え、10 月 29 日～11 月 6 日の期間、東京でインスタレーションの発表を行います。ロナン&エルワン・ブルレックは、「押出成形」というタイルの製造技術と釉薬による豊かな表現にフォーカスし、グラフィカルなコンポジションが美しいインスタレーションを作り上げました。

展示されるオブジェはタイルとして制作されましたが、従来の考え方を超えた視点をもたらし、カスタムメイドのタイルが持つ壮大な可能性を表すことを目指しています。

【エキシビション概要】

TAJIMI CUSTOM TILES TOKYO 2022

An installation by Ronan & Erwan Bouroullec

会期：2022 年 10 月 29 日（土） - 11 月 6 日（日）

OPEN：11:00 - 18:00 会期中無休

会場：LICHT 東京都目黒区青葉台 3-18-10 カーサ青葉台 2F

*プレスプレビュー：2022 年 10 月 28 日（金）14:00 - 17:00
(Ronan Bouroullec が来日予定。プレビュー時は在廊の予定です)



Sosei by Ronan & Erwan Bouroullec



©Studio Bouroullec

「Sosei」というタイトルは、いくつかの成分・要素が集まって全体を組み立てることを意味する日本語の「組成」から名付けられました。多治見特有のタイルの製造技術である押出成形技術と、透明感や奥行きのある釉薬の表現の豊かさを生かすデザイン。色彩とフォルムによるグラフィカルなコンポジションを楽しめるオブジェのようなタイルです。

多治見とは、いわば様々なフレーバーが溢れ出るお菓子屋さんのようなもの。
黄色、茶色、ピンク…。それは花火のようでもあり、歓喜とともに爆発する。
それを使って遊ぶ楽しみは言葉にできないほどだ。

ー ロナン&エルワン・ブルレック



photo: Alexandte Tabaste

【profile】

フランスのデザイナー、ロナンとエルワン・ブルレックの兄弟は、ブルターニュのカンペールでそれぞれ1971年と1976年に生まれ、1999年より協働している。インダストリアル・デザインから工芸作品まで、大量生産品から研究活動、そしてオブジェから公共空間まで、彼らの創造活動は様々な表現領域をカバーしながら、少しずつ我々の生活に浸透してきた。彼らのキャリアは国際的な企業や、ヨーロッパから日本に至るあらゆる地域で代々受け継がれてきた技術を持つ職人たちとのコラボレーションによっても特徴づけられる。様々な研究活動により世界の名立たる博物館との協働も実現している。 <https://www.bouroullec.com/>



長い歴史と伝統に根付いた、 多様性のあるものづくり

岐阜県南部に広がる多治見市。良質の粘土鉱物を大量に含む豊かな土壌を有するこの一帯では、およそ1300年前に焼き物文化がはじまりました。その長い歴史のなかで日本を代表する陶磁器、美濃焼が誕生したことは、多治見周辺域のものづくりの可能性を大きく引き伸ばしていきます。こうした背景のもとで20世紀初頭に始まったのが「タイルづくり」でした。多治見では現在でもタイル製造が盛んに行われ、その総合生産量は全国1位。モザイクタイルに至っては国産の9割をこのエリアが占めています。しかし、多治見タイルの特徴は、何もその圧倒的な生産力だけではありません。基材のみならず、素材、成形、釉薬にいたるまで、さまざまな形態、特性のメーカーが多角的に多治見のものづくりを支えています。さらに、ほかのエリアではほとんど見られなくなった日本の伝統的な焼成技術、変化に飛んだ釉薬表現、それを支える設備や生産方法が残っているのも特徴と言えます。

バラエティ豊富な製造手法で生み出される多治見のタイル

釉薬の種類や焼成方法によって、バラエティに富んだ製造手法が存在するのが多治見タイルの特徴です。手作りのような風合い、温もりと深みを感じさせる色みと質感が特徴的な多治見タイルは、まさに日本の美の象徴とも言えるでしょう。タイルの仕上がりに影響を及ぼすのが、焼成のプロセスです。通常、量産タイルは均一で、安定した仕上がりのローラーハースキルンで焼成されますが、多治見ではトンネル窯やシャトル窯を使用しま

す。内部温度を変動させながら20時間以上かけて焼成する特性が、タイルに独自で生き生きとした表情を与えるのです。それに加え、酸化焼成とは対照的な還元焼成を特殊な釉薬と組み合わせることで、日本の伝統的な焼き物（陶芸）にも似た特徴的な風合いと色みを実現することができます。

多治見にしかできないことを、 世界に

TAJIMI CUSTOM TILESは、ダヴィッド・グレットリのクリエイティブディレクションのもと、株式会社エクシズが立ち上げたブランド。株式会社エクシズは、商社として事業展開しつつオリジナルタイルの商品開発も行ってきただけで、独自のラボ施設で試作品のプロトタイプの開発と見本焼きができる異色の企業です。自社のラボと地元メーカーのネットワークを組み合わせることで、短い納期、安定した供給、高い品質を備えた製造環境を構築しています。TAJIMI CUSTOM TILESのほか、日本古来の伝統的なタイル製造法の復活や、環境保全のことを考えたリサイクルタイルの生産などにも積極的に取り組んでいます。



David Glaettli (ダヴィッド・グレットリ)
／クリエイティブ・ディレクター

1977年生まれ、スイス・チューリッヒ出身。アート、マスコミュニケーションと日本語を学び、イタリア・ミラノとスイス・ローザンヌのECALでインテリアデザインを学ぶ。チューリッヒでプロダクトやインテリアデザインのプロジェクトに従事後、2008年に大阪の柳原照弘主催のデザインスタジオに参加。2013年、京都に拠点を移しGlaettli Design Directionを設立。2021年にチューリッヒへ移りStudio David Glaettliをオープン。東京との2拠点で活動。クリエイティブディレクション、キュレーションブランディング、コンサルティング、デザインマネージメントを専門に手がける。多摩美術大学非常勤講師。主なクライアントにカリモクニュースタンドとSUMIDA CONTEMPORARY、TAJIMI CUSTOM TILES、MINO SOILなど。www.davidglaettli.jp

株式会社エクシズ／運営

1994年、岐阜県多治見市に創業した総合タイルメーカー。「母なる大地に感謝をこめて。」をモットーに、天然素材と職人の技にこだわり、オーダーメイドのタイル制作や、タイルを中心とした建材の輸出入を行なっている。自社内に多彩なタイプのタイルサンプルを製造できるラボを併設すると同時に、多治見一帯の複数のタイルメーカーと協働し、安定した生産環境を保持。また、リサイクルタイルの生産の仕組みを開発するなど、環境の持続可能性を高めるなどの取り組みも積極的に行なっている。

www.x-s.jp

PRESS CONTACT

このニュースに関するご質問、取材や掲載のご希望がございましたら、プレス担当までお問い合わせください。

竹形尚子 (デイリープレス)

Tel. 03-6416-3201 / 090-1531-6268 naotakegata@dailypress.org